

### ◆短角種 暑い夏は子牛の乳房炎に注意

日本短角種の子牛の乳房炎は、アブなどの吸血昆虫による「かみ傷」から発症します。特に暑い夏は、とくに吸血昆虫が大発生し、被害を与えるものです。

乳房をよく観察してください。大きくはれていたり、石のように硬くなっていたり、ひどいのは腐っていて、握るとボロリと取れてしまうものもあります。そうってからでは遅いので、薬剤の塗布および早期発見に努めてください。

親牛の乳房炎は、短角牛の特徴でもある大きな泌乳能力が裏目に出て四産、五産もした牛で、四本とも正常な牛は数えるほどしかいないでしょう。有効な予防処置はあまりないのですが、乳房が張っていたら、とにかく搾ってやる（分べん後でも離乳時でも）、そして獣医師の処置を受け、それ以上悪化させないことです。